

# 戦争体験談(戦時中の生活)

みよし みのる  
三由 實さん

大東亜戦争が始まったのは、私が富山県立魚津高等女学校の1年生のときの12月8日に始まりました。私たちが高等学校を受験するときから、筆記試験がなくなり、口頭試験になりました。いわゆる面接試験ですね。時局のこととか教室をいくつかまわって質問を受けました。

当時、雪組、月組、花組という3つのクラスがありました。1クラス50人くらいいたかと思います。2年、3年になりますと戦局がひっ迫してきて、敵国の言語だということで、英語の時間がなくなりました。その代わりに農業という時間が新たに設けられました。食糧難な時代でしたので、西部中学校の南側にありましたバスケットコートとバレーボールコートを2面つぶして、畑にし、じゃがいもやさつまいも、かぼちゃなどお腹がふくれるものを植えていました。

当時は、化学肥料などありませんので、私たちは肥をかつぎました。2人1組でおけに人糞を汲んで、天秤で前と後ろにかついでこぼさないように運んで耕作をしました。もちろん、先生は農業に詳しくないので、農家の方が指導にきてくださいました。

音楽は、西洋式の「ドレミファソラシド」は使わないで、「イロハニホヘト」に変えて、音階を言っていました。

体育の授業は行進です。きちっと足並みを揃えて、歩く練習ばかりしていました。今でも音楽の強弱に合わせて、右、左と歩調をとることは得意です。また、弓道やなぎなたも行い、新潟の武道専門学校を出られた女先生に教えてもらいました。赤と白の旗を手にもって、手旗信号もやりました。

3年生のときに、勤労働員令が出ましたので、みんな授業へ出ないで工場

へ行くことになり、女学生は入善の呉羽紡績や笹津の敷島紡績の工場へ行って、パラシュートや兵隊さんの軍服の糸を作ったりする作業をしていました。

私は、体を壊していたため1年遅れて、西魚津にあった立山航空という飛行機の部品を作るところへ行きました。動員で行くときは、まず学校へ集まってから、隊列を組んで工場へ向かいます。

今思えば、幼い私たちが大切な飛行機の部品であるジュラルミンを平らにするためにやすりをかける仕事をしていましたが、果たして間に合ったのだろうかと思っています。

その頃の住宅には、家の前に防火用水があって、火ばたきをぬらして、たいて消すことになっていました。そばには、砂ふくろもありました。木のゴミ箱には、コールタールが塗ってあり、ガラスには粉々に割れないように縦横斜めに紙が貼ってありました。

今考えると、実際空襲があつたらこんなことでは到底けせるはずもないのに、日本はそれまでの戦争を自国でたたかたことがないので、このような準備をしておけば大丈夫と思っていました。

それまでは、男性も女性もいつも和服を着用し、先生や電話局の人、看護婦さんなど限られた人だけが洋服を着ていました。戦争がだんだん激しくなり、それではいざというときに動きにくいし、「ぜいたくは敵」ということもあり、着物の上から「もんぺ」を着るようになりました。

また、空襲から逃れる際に頭や肩を保護するため、家にある布きれを縫い合わせた防空頭巾をいつも鞆のように持ち歩き、いざというときに備えていました。けがをしたときのために、もんぺや防空頭巾には必ず、住所・氏名・年齢・血液型などを書いておきました。

毎月1日には興和奉公日ということで、高田町のお稻荷さんに集まって、武運長久祈願祭が行われ、兵隊として戦場に行かれる方の武運をお祈りするのです。

戦況とともに、身の回りから物がだんだんなくなってきました。ゴムがないので、長靴もありませんので、わらぐつをはいたりもしていました。

お米や魚、食べ物すべてが配給制です。ご飯を主食としていましたので、おなかをいっぱいにするために、さつまいもや大豆をご飯に入れてしのぎました。

金属も供出しなければならなかったもので、お寺の鐘や学校の銅像だけでなく家庭でも指輪やネックレスを出さなければなりませんでした。

戦争は、敵も味方ありません。人間にとっては大変困難なものです。できるだけ戦争を起こさないよう話し合いで解決してほしいと思います。

「平和」がずっと続いて欲しいと思う気持ちを、一人ひとりが心掛けを持ち続けて生きて欲しいです。そのためには、ある程度、教育という部分が影響するのかもしれませんが。戦時中、自分の生徒たちに戦争へ行くことを勧めていた先生が、戦争で生徒が亡くなって、後になってすごく後悔している方がおられました。

大東亜先生になるまで、日本は負けたことがなかったし、日本には神風が吹くと言ったりしていましたが、長く続いた戦争では、物が色々なくなりますし、たくさんの亡くなった方がおられます。

戦争は、悲惨でやっぱり怖い。二度と戦争が起きない世界が続くことを強く願います。